



## 平成 29 年度都道府県看護協会看護労働担当者 会議・第 5 回看護職のカンゴサウルス賞授賞式

5月18日、JNAホールにおいて、平成29年度の都道府県看護協会看護労働担当者会議が開催されました。

坂本すが会長の挨拶の後、日本看護協会の勝又浜子常任理事が「平成29年度の看護職の労働環境に向けた」日本看護協会の事業方針として「看護職の賃金モデル」普及・導入支援（導入支援者研修を6地区で開催）、看護職のWLB推進ワークショップ事業の最終年、夜勤負担の軽減・労働時間管理等の働き方改革の推進、看護職の多様なキャリアパス周知事業、「看護職の社会経済福祉に関する指針」改定などについて説明しました。

労働政策部の網戸順一さんは「介護施設等における看護職に求められる役割とその体制の在り方に関する調査研究事業」について説明。介護施設などで勤務する看護職の充足度、教育・研修体制、賃金水準などについて、平成28年度に調査したもの。施設の調査と併せて職員の仕事に対する意識調査も行われました。

大原記念労働化学研究所の佐々木司研究部部長は「夜勤労働に関する労働科学研究の文献調査報告」と題して、2013年から17年3月までに発表された看護職の夜間・交代勤務に関する論文から、いくつかの論点を紹介しました。

労働政策部の泊野香さんが、都道府県看護協会と医療勤務環境改善支援センターとの連携について調査したアンケート結果を説明。このあと泊野さんが「医療勤務環境改善支援センターと連携したWLB推進モデル事業」の概要を説明し、山形県看護協会と鳥取県看護協会から事例紹介が行われました。労働政策部の橋本美穂部長は、これまでのWLB推進に関する取組の経緯と成果について話され、また今後の取組について説明されました。橋本部長の解説を受けて、平成30年以降の労働環境改善に向けた取組について、参加者がグループワーキングを行いました。

夕刻、会場を移して、第5回看護職のWLB推進カンゴサウルス賞授賞式が行われました。今回は37県、99施設が受賞。代表者が坂本すが日本看護協会会長から賞状とカンゴサウルスのぬいぐるみを受け取りました。



## 第7回「忘れられない看護エピソード」イベント

5月7日、JNAホールにおいて「看護の日・看護週間」の中央イベント、第7回

「忘れられない看護エピソード」表彰式とトークショーが開催されました。

「忘れられない看護エピソード」には、3578 作品の応募があり、この中から看護部門、一般部門、それぞれ 10 作品が入賞作として選ばれました。最優秀作品は「忘れられない親子の姿～血のつながりってなだろう～」(瀬上希代子さん、看護部門)と「赤い星」(洲本美智代さん、一般部門)。内館牧子賞は「闇の中の私」(小谷英子さん、看護部門)と「痛みを共有して下さって」(宮内瑞穂さん、一般部門)。

「看護の日」PR 大使の川島海荷さんが最優秀作品を朗読したあと、表彰式が行われました。また、内館牧子賞の「闇の中の私」をもとに作られたビデオが放映されました。そして、特別審査員の内館牧子さんが、全体の講評をされました。

第 2 部では、川島海荷さんと東京保健医療大学の教員、学生の皆さんとのトークショーが行われました。

また「看護の日」の 5 月 12 日には、東京医療保健大学五反田キャンパスで「忘れられない看護エピソード」の朗読会が開かれました。「看護の日」PR 大使の川島海荷さんが、看護を学ぶ学生約 100 人を前に、心のこもった朗読を披露。学生とのトークセッションも行われました。

※「忘れられない看護エピソード」の入賞作品および、ビデオ「闇の中の私」は、日本看護協会のホームページで公開されています。

[http://www.nurse.or.jp/home/event/simin/episode/index.html?utm\\_source=what%27s\\_new&utm\\_campaign=0508\\_01](http://www.nurse.or.jp/home/event/simin/episode/index.html?utm_source=what%27s_new&utm_campaign=0508_01)



## 日本看護協会 平成 30 年度の診療報酬改定に関する要望書を提出

日本看護協会は 5 月 19 日、厚生労働省保険局長に平成 30 年度の診療報酬改定に関する要望書を提出しました。

《 要 望 》

1. 効果的・効率的な医療の実現のためには、看護がその機能を最大限に発揮することが重要なことから、必要な分野・領域において看護師配置を充実させるなど、体制強化につながる評価を拡充されたい。
2. 患者がよりよい状態を保ちながら入院医療から在宅医療へ移行するために、訪問看護等看護職が担っている医療と介護をつなぐ機能について、強化・推進されたい。
3. 患者にとって安全・安心な医療・看護を提供するために、地域における医療安全に資する評価を拡充されたい。
4. 一億総活躍社会の実現に向け、日本の医療・介護提供体制を支える看護職員にとって良好な労働環境が確保されるよう、診療報酬上の評価の維持・充実を図られたい。

---

このニュースレターは、職場で看護政策や政治について考える時の資料になるよう、日本看護連盟が施設連絡員や代表者、役員等に対し特別に配布するものです。ミニ研修会や会議の資料等として積極的にご活用ください。